

第19回宮古市小学生ドッジボール大会ルール

一般財団法人宮古市体育協会

1 チーム

◆種目

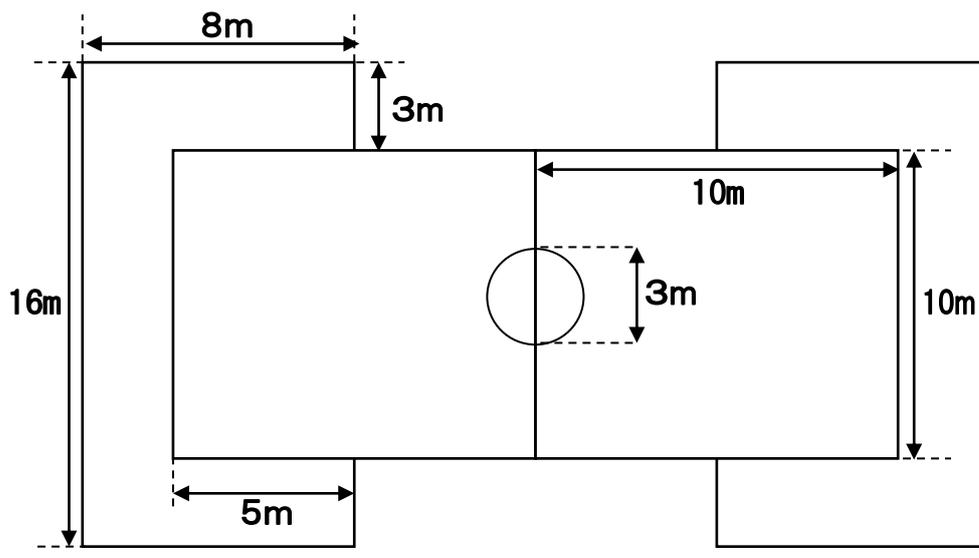
- ① 3・4年生の部
- ② 5・6年生の部

◆チーム構成

- (1) チームはプレイヤー12名以上24名以内で、監督を1名置くこと。
※10名以上であれば参加を認める。
- (2) チームにキャプテン1名を置き、ゼッケンの下部にキャプテンマーク(アンダーライン)を入れること。

2 競技場及びボール

- (1) ボールは、J. D. B. A(日本ドッジボール協会)公認球を使用する。
- (2) コートの大きさは下記のとおりとする。



※ベンチ前のラインを越えて指示・応援をしないこと。

3 競技方法

◆試合の出場選手数は12名とする。(10名でも可能)

◆試合時間は1セット5分間とする。

- (1) セット終了時の内野に入っているプレイヤー数で勝敗を決定する。
(ただし、相手プレイヤーを全員アウトにした場合は、その時点で試合終了となる)
- (2) セット終了時に内野のプレイヤーが同数だった場合は、その状態で5分間の延長戦を行い最初にアウトを取ったチームの勝利とする。

(3) 試合は1セットマッチとする。決勝戦のみ3セットマッチとし、セットごと勝敗を決する。

4 試合開始

(1) ジャンプボールにより試合開始とし、ボールが主審の手を離れた時点で試合時間を計測する。なお、ボールに触れるのはボールが頂点に達してからとする。

(2) ジャンパーへの内野からの第1投の攻撃を禁止する。

5 試合終了

(1) 試合は、主審のホイッスルで終了とする。

(タイムキーパーは旗で主審に終了を知らせる)

(2) 選手はプレーをやめ、その場に座ること。

(3) ブザーと同時にプレイヤーの手から離れた投球は有効とする。

6 試合放棄・不戦勝・失格

(1) 試合時間までにプレイヤーが10名揃わなかった場合は試合放棄となる。

ただし、(当日の試合での)怪我や事故などにより試合に出場できる選手が10名未満の場合は、審判の許可を受ければ試合に参加することができるが0対11のスコアで相手チームの勝利となる。

(2) 試合中、負傷者が続出しても、内野1名・外野1名のプレイヤーが残っている限り試合を続行できる。

プレー可能なプレイヤーが1名になった時点で「失格」となる。

(3) 審判から、プレー及び言動の改善を求められたにもかかわらず、指示に従わなかった場合は、そのチームは失格とし相手チームを不戦勝とする。

7 セットアップ(フォーメーション)

(1) 試合開始時に、外野1名以上を配置する。

(2) 試合開始時の外野プレイヤーは、その時点でアウトとみなし、相手の内野プレイヤーをアウトにしない限り、内野に入ることができない。

8 メンバーチェンジ

(1) 予選は、試合中選手の入替えを行うことができない。

(2) 決勝戦では、セット間でプレイヤーの入替えができる。

(3) 負傷退場者が出た場合は、上記にかかわらずメンバーチェンジができる。

(4) メンバーチェンジは、監督・キャプテンが主審に告げ許可を受けること。

9 アウト

(1) 相手の投球したノーバウンドのボールに当たり、そのボールが地面に落下した場合にアウトとなる。

- (2) ユニホーム、鉢巻、ゼッケン等に当たった場合もアウトとなる。
- (3) 相手チームの投球で2名以上続けて当てられた場合は、最初のプレイヤーのみアウトとなる。

10 セーフ

- (1) 顔面・頭部にボールが当たった場合はセーフとなる。
 - ※故意に頭部に当てる行為はファールとし、審判からプレーの改善を求められる。アウトまたは失格と判定する場合がある。
- (2) 相手の投球したボールが内野のプレイヤーに当たり、そのボールが空中にある間に、味方プレイヤーがノーバウンド・ノーファールでキャッチした場合セーフとなる。

11 内野同士・外野同士のパス禁止

- (1) 味方の内野同士・外野同士のパスを禁止とする。
- (2) 下記の条件を満たした投球(アタック)は外野同士のパスにならない。
 - ・投球されたボールの軌道が相手プレイヤーの肩のラインより低く、広げた両手の内側をボールがノーバウンドで通過した場合。

12 内野・外野への移動

- (1) 各セットの開始時にセットアップ(フォーメーション)を作るとき。
- (2) アウトになったプレイヤーが外野に出るとき。
- (3) 外野プレイヤーが相手の内野をアウトにし、内野に復帰するとき。
 - ※速やかに復帰をしない(外野でプレーを継続して行う等)の場合は、内野への復帰は認めない。また、外野が1人の場合は内野に復帰できない。
- (4) 試合中の内外野への移動は必ず審判の後ろを移動し、コートの外を通らなければならない。
- (5) ボールデットゾーン内を移動中のプレイヤーに対しての攻撃やパスを禁止する。
- (6) 相手の攻撃をかわすため、相手エリア及びボールデットゾーンに出てはならない。※アウトと判定する場合がある。

13 内野復帰権の放棄

- (1) アウトを取ったにもかかわらず、そのまま外野で連続的にプレーした場合は内野復帰を放棄したとみなされ、再度アウトを取らない限り内野へ復帰できない。
- (2) 自らの意思で外野に残る場合は、手を挙げて内野復帰の放棄の旨を主審に伝える。

14 ファールとボールの支配権

(1) オーバーラインスロー(支配権は相手の内野)

投球したとき、身体の一部がラインを踏んだり越えたりした場合。

(2) オーバーラインキャッチ(支配権は相手の内野又は外野)

ボールキャッチ時に、身体の一部がラインを越える。または踏んだ場合。

(3) ホールディング(支配権は相手の内野又は外野)

相手の内野及び外野に転がっているボール(ルーズボール)を、手や足などで引き寄せてはならない。ただし、空中にあるボールはこの限りではない。

(4) 5秒ルール(支配権は相手の内野)

ボールを捕球してから5秒以内に投球しなければならない

(転倒等は、この限りではない。)

(5) ファイブパス(支配権は相手の内野)

同一チームの内野・外野間のパスは、ファール及びアウトがなく連続4回までとし、5投目のパスが成立した時点でファールとなる。

パスが連続している間にワンタッチがありボールデットとなっても、再開後のパスの回数は継続して数える。

ただし、アタックした場合には回数は0に戻る。

15 ボールデット

(1) ボールデットゾーンにボールが接した(転がる・バウンド)場合。

(2) インプレイゾーン以外で審判員または、内外野へ移動中のプレイヤーにボールが接したとき。

(3) ファールが確定したとき。

(4) ボールデット後は、投球前にボールを頭の上で一度静止し、主審や他のプレイヤーに合図を出し、審判のホイッスルでプレーを再開すること。

16 ボールデット後の支配権

(1) 内野が投球したボールが、直接ボールデットになった場合⇒相手の内野

(2) 内野が触れたボールが、ボールデットになった場合⇒相手の内野

(3) 外野が投球したボールが、直接ボールデットになった場合⇒相手の内野

(4) 外野が手でボールに触れた(ワンタッチ)後、ボールデットになった場合
⇒ワンタッチした外野

17 その他

(1) フェアプレイを心がけること。

(2) 試合中の判定については審判の指示に従うこと。

(3) このルールで定められた以外のルールについては、日本ドッジボール協会ルールブックに基づき判定する。